報告日：平成 26 年 9 月 22 日

堺経営者協会　青年経営研究会　仙台視察研修　報告書

今年は東日本大震災の復興の様子を宮城県の仙台市方面に視察見学に行ってきました。
日程は下記の通りです。

視察見学期間　2014 年 9 月 5 日（金）～ 9 月 6 日（土）

参加者

代表幹事	井上軸受工業（株）	代表取締役	井上　徹氏
	（株）アスト中本	代表取締役	中本吉則氏
	大井建設（株）	常務取締役	大仲康司氏
	（株）米田商店	取締役	米田幸樹氏
	くまとり旅行センター	代　表	山本　功氏
	SMBC 日興證券堺支店	次　長	和田祥美氏
	興隆産業(株)堺事業所	所　長	花谷　登氏
	（株）ﾊﾟｿｺﾝﾚｽｷｭｰｻｰﾋﾞｽ	代表取締役	伊藤久美子　　計 8 名

	日付	都市名	現地時間	交通機関	行程	食事	
①	9/5 (金)	伊丹空港 発	8：15	ANA731 便	**集合：伊丹 1 F ANA 側**	朝	
		仙台空港　着	9：30		＜所用時間＞　1 時間 15 分	昼	○
					空港内で震災跡の写真等見学	夕	○
		名取市 閖上地区	10：00	語り部ﾀｸｼｰ	仙台空港から塩釜まで語り部ﾀｸｼｰの運転手ガイドにて車中説明。		
		塩釜港-松島港	12：00	松島遊覧船	塩釜港内にて昼食		
		石巻市立町	15：00	レンタカー	世界遺産の松島を見学 復興ふれあい商店街 （ショッピング）		
		秋保温泉 （ﾆｭｰ水戸屋）	18：00		ﾆｭｰ水戸屋旅館にて宿泊		
②	9/6 (土)	宿泊所　発	9：00	移動はすべて	主婦の店「さいち」にて「おはぎ」購入	朝	○
						昼	○
		視察先　着	10：00	レンタカー（自走）	企業見学先：皆成建設 仙台市内		
		平泉（中尊寺）	14：00		中尊寺　拝顔		
		仙台空港　発	16：45	ANA738 便	空港内にてショッピング		
		伊丹空港　着	19：00		伊丹空港着　解散		

＜視察研修内容とその感想＞

私たちは 9/5（金）～9/6（土)まで仙台方面に東日本大震災の「今の現状」を知るべく、視察見学に行ってまいりました。内容と感想は下記のとおりです。

←↑仙台空港内

■9/5（金）初日。伊丹空港から仙台空港まで約 1 時間 15 分。
この空港も震災直後 3.2m の津波に襲われ、１Ｆ付近が水没。
空港内にはこの時の悲惨な現場写真が展示されている。

その後、空港前に迎えに来てくれていた、語り部タクシーに乗り込み仙台の被災地区を見て回った。
途中で行きかう車はほとんどがトラックやダンプ車ばかり。
まだ、今でも「がれき」を拾う人々の風景。
※現在、「瓦礫ひろい」 は農水省関連の仕事として

ボランティアから仕事になってきている。

↑迎えに来てくれていた
語り部タクシー＆ガイド。

↓　空港近くの風景はこんな感じ　→

↑黄色い部分が浸水地域。

■この空港周辺の地域でも地盤沈下し、民家も何もかもがほとんど流された。各地域でも残った家もあるが、住めたものではない。その中でも、嵩上げして新築を建てる方たちもいるが、ほとんどの方は住宅等などは撤去され、仮設住宅暮らし。仕事場もないし、住宅もないので、今現在、住んでいる人や施設はこの地域を整備している人や国や行政の請負仕事関連の人がほとんど。建築関連の仕事がたくさんあるが、ほとんどが行政からの仕事になっているので、入札業者が全国から集まってきて、復興関連の仕事をしているらしい。※この地の工事入札の条件は人工仕事と道具を持ってくるのが必須条件らしい。

■仙台市内から名取市閖上地区に入り、全体を見渡す。

宮城県全体で 80cm 地盤沈下しているらしい。戻りたい人が全体の 23%くらい。この辺の地域は戻ってきてもいい地域だが、市町村によっては戻れない地域もある。市町村の考え方によって違う。災害の後の補償に関しても震災前に新築を建てた人ともうすでに老朽化していて震災にあった人とでは違うし、新築するにしても違いがわからないとの理由からなかなか難しい。

それよりも、家屋の撤去すら 100 坪ぐらいの大きな家が多いため、個人所有の建物なので、まず、所有者をさがして、その人がいなければ、親戚縁者と順番に探してから、撤去しなければならなかった。

この地域では約 180 名の方が亡くなっており、黄色い旗は、ここに住んでいた人が戻ってくるという意思表示らしい。

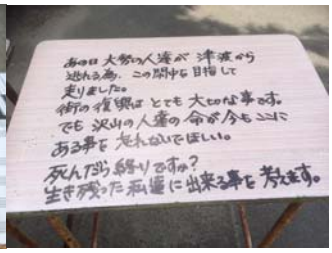
上の地図からもわかるように、海岸から 5 キロ圏内が浸水しているため、この間には何も残っていないし、田畑も塩害で農作物が育つことができない。今の季節は雑草で草が生えてきて一面は緑一色。その中でも塩害に強い「ヒマワリ」「ナタネの花」などが植えられていた。

語り部タクシーのガイドさんの説明では、宮城県では昔から「てんでんこ」という言葉が上受け継がれていたため、「災害の時は、何を放っておいても、自力で個々に逃げること」という教えがあったため、逃げる意識が高かったのがよかった。

まずは自分だけでひたすら逃げる、他人を気遣って逃げ遅れ、共倒れが一番ダメであるということがとても印象的でした。

震災の時、よくＮＨＫのテレビにもよく取材されていた、名取市閖上小学校も視察し、この小学校でも多くの学生が津波で尊い命を落とした痕跡があちらこちらに残っていました。

↑　閖上小学校　↑



震災にあわれた人や遺族が書き残したもの　↑

また、この周辺の民家もご他聞にもれず、津波に飲み込また様子があちこちに残っていました。中でも、新築６ヶ月程で津波に飲み込まれ、２Ｆ部分の半分以上まで水につかった様子が、壁に残っているのをみると、なんだか胸が締め付けられました。

↑震災６ヶ月前に新築された新築一戸建て　内部　→

■昼からは視察観光。語り部タクシーともここで別れ、昼食を塩釜港で取り、世界遺産の松島を松島遊覧船に乗り、船上から観察。自然がもたらす島の形状やそこで暮らす方々の模様を、遊覧船のアナウンスを聞きながら満喫。大小の島並みを見学。船内にて海産物を購入！

↑松島遊覧船。　←↓　松島の島々

■松島港に到着。その後、レンタカーに乗り込み、松島周辺を散策。

■東日本大震災の取材でよく取材されていた、
石巻立町復興ふれあい商店街にも立ち寄り、名物の
「揚げたい焼き」や「ゆば種食パン」を購入した。

↑　ふれあい商店街　内部　↑

まだまだプレハブ商店街だけど人情味のある皆さんばかり！

■宿泊先の秋保温泉「ホテルニュー水戸屋」に到着。さっそく温泉を満喫。

夕食も豪華な会席料理で舌鼓。

↑部屋はこんな感じ。

↑夕食のメニュー

←井上代表幹事の挨拶で今日の反省会と次回の視察先について語らいました。

　翌朝、なんとこのホテルの近所にある「おはぎ」で有名な、主婦の店「さいち」に朝一立寄り、名物「おはぎ」と「ずんだもち」を購入。朝９時前なのに、この行列。

やっぱりテレビの効果はすごし！　味は絶妙においしいし、大きくてうれしい。

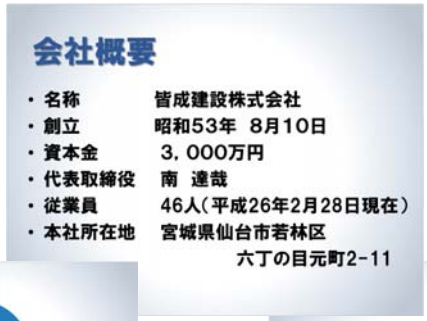
■9/6（土）視察先の皆成建設(株)に到着。

土曜日にもかかわらず、南社長と社員の方が出迎えていただき、震災後に建築されたオフィスに迎え入れていただき、震災当時の脅威と苦労をお話いただきました。

この会社は、設立が昭和５３年で従業員数が４６人の建設会社。本社は宮城県仙台市内にあり、仙台市には販社（クレバリーホーム）を２店舗と郡山に１店舗あるそうです。

今回、この会社を視察することになったのは、この会社が震災前から取り組んでいたＢＣＰ導入の経緯や震災直後の活動内容を教わるためでもあった。

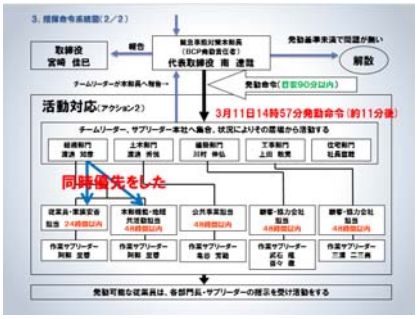
南社長自らが、この取組みについてくわしくお話してくださった内容をちょっと紹介します。



↓　皆成建設　本社

ＢＣＰを取り組むきっかけは、「地震は必ず起きる！」という前提で危機管理に備えようとアセスメントの一環で２００９年ごろからＢＣＰに取り組み始め、２０１０年３月には「従業員を守る」「事業継続の早期復旧」「地域の活力を守る」を策定目的に定め、もしもの災害時発生の時の発動内容等を事細かに作り、そのためにかけたシステム改善や設備投資など、金額的にも大きな投資を行いながら準備に備えていたそうだ。

もうこれ以上の準備投資は必要か？と考えていたころ、平成２３年３月１１日午後２時４６分にＭ９．０の東日本大地震に遭遇。その直後、事前に定めていた指揮命令系統図に基づき、緊急対策本部を設置し、支持命令を行うことができたという。



従業員も何度もこのシュミレーションを行っていたため、誰にどう伝えたらいいのかが把握されていたため、うまく誘導することができたらしい。まだまだ改善点はあるが、社員だけでも安否の確認や冷静に判断し、行動することができたのは、このＢＣＰの取組みのおかげであったと思うと南社長は語ってくれた。

※震災時はなんといってもライフラインの確保が一番で、中でも食事の用意をどのように確保するか、また水や明かりの確保に苦労した話は、現実身のあるお話でした。

この体験を生かして、毎月第１土曜日はＢＣＰ訓練日を設けたり、防災無線、備蓄品等も、いろいろ会社、営業所に準備することにしているらしい。

この取組みは、建設業界のみならず、地方整備局等にも取り上げられ、関係紙でもどんどん紹介されているらしい。
ただ、まだまだ設備投資の金額的にも厳しく、国や地方行政が一緒になり、取組み企業といったいとなって、支援や補助を受けられるような体制整備ができれば、もっと増加するのではないか？と語っていた。

建設新聞

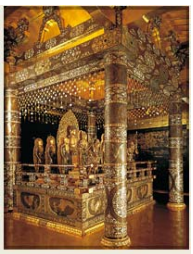
BCP策定企業が増加
12年版「防災白書」

平成24年6月20日（水）掲載

■昼からは仙台市内と世界遺産見学②。
まずは、昼食から。仙台といえば、牛タン。
南社長お勧めの、牛タン専門店「利久」で舌鼓。
分厚いステーキをいただきました。

その後、車で平泉まで。世界遺産「中尊寺」を拝観。

中尊寺といえば、日本を代表する当時、贅を尽くして作られたであろう、金箔で覆われた阿弥陀如来像が収められている国宝の「金色堂」や重要文化財に指定されている平安時代の中尊寺経が収められている「経蔵」など、すばらしいものばかり、中でも美しい杉林や庭園は四季とりどりに色ずくのを想定されて植えられている感がすばらしい。ここを訪れた松尾芭蕉も「奥の細道」の中で、ここ中尊寺のことをきちんと詠んだ詩がつづられていた。



■その後、仙台空港にもどり、空港でおみやげを購入し、一路　大阪へ帰る準備。

仙台空港 17：40 発 ANA738 便にて伊丹空港へ 19：00 着。

家路についた。

■感想としては、、、

今回の仙台視察では、東日本大震災から３年。徐々にではあるが、人の力で少しずつではあるが、津波の後やその時になぎ倒された家屋や町並みを片付けられている様を見ることができ、映像ではなく、自分の目で見ることができたことに感動と感謝を戴きました。

まだまだ復興しているとはいえないが、生活を取り戻そうとしている県民の様子をかいま見れたように思われました。

世界遺産のあるいい地域なのに、日本文化にとっては大切なこの地域や遺産やそれを大切に残そうとしている人々の生活を、早く取り戻したいものです。

報告者：(株)パソコンレスキューサービス　伊藤久美子